

# 学校評価アンケート集計結果のご報告

令和4年3月  
静岡学園中学校・高等学校

本校では、未来社会が抱える複雑で解決困難課題を克服できる人材を育成すべく、自主自立の精神、共生の精神、心理と生命を尊ぶ精神、進取の精神を教育理念に、より良い学校づくりを目指して改革を続けております。教育活動の改善、環境の整備のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果の確認とともに改善課題の的確な把握を図るべく、本年度も学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果に分析を加え、「生徒のための改革」の進捗と今後の方向性をお伝えするために本書面を起こしました。ご高覧を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長 鈴木 啓之

生徒、保護者に「本校に入学して／入学させて良かった」と評価されることは生徒を預かる学校として最低限満たすべき要件と考えております。肯定的な回答が占める割合は、生徒が92%（昨年が82%）、保護者が94%（同92%）となりました。コロナ禍で教育活動には様々な制約があったことにもご理解をいただいたことに感謝いたします。データの解析で把握できた「総合的な満足度に大きく寄与する要素」に対して教育リソースを重点的に配分し、それらの改善をスピーディに進めていきたいと思っております。

**生徒** 総合的に考えて、本校に入学して良かったと思う。  
**保護者** 総合的に考えて、本校に子どもを通わせて良かったと思う。



—— グラフの見方（凡例と集計方法について） ——

凡例：■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

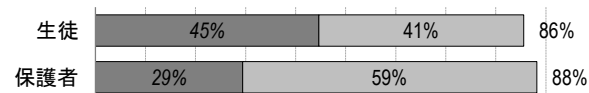
集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。棒グラフの右端外側に添えた数値は肯定的な回答が占める割合（肯定率）です。なお、数値（百分率）は各々小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。

学校への満足度を強く決定しているのは、生徒の場合、「周囲の努力などから刺激を受けて自分も頑張れるか」「学校の授業を受けて進路希望を叶える学力がつくか」などであるのは昨年度と同じ結果でした。保護者は「わかりやすく、納得のいく生徒指導方針」「将来を拓く力が身につく学校の授業」などが大きな要素になっています。学力という「生きる力」の獲得を確実なものにするとともに啾啄宣言でお約束した「生徒が向上したいと思った時を逃さないサポート」を着実に実行していきたいと思っております。生活・学習・進路の各指導の方針も改めて明確に示し、生徒間に相互啓発が働くコミュニティ作りにも注力します。

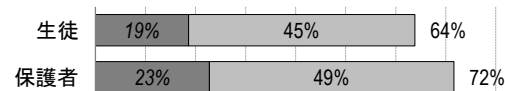
## 【授業・学習指導】

学校の教育活動の中核である学習について幾つかの観点で生徒、保護者に評価を求めました。学校を挙げて授業改善に取り組んでいますが、現状にはまだ改善の余地が残ります。校内外の優れた実践に教員が学ぶ機会を作り、新しい学力観の下での教材研究にも力を入れます。生徒が自ら見通しを立て日々の勉強に取り組む姿勢の涵養は、道半ばであることを改めて認識する結果です。定期考査などを機に行う学びの振り返りなどでメタ認知と主体性の向上を図る取り組みを続けてきましたが、より効果的な方法の確立を目指し、さらなる研鑽と努力をお約束します。

**生徒** 授業にしっかり取り組めば、進路希望を叶えるだけ力がつく。  
**保護者** 学校の授業を通し、子どもは将来を拓く力を身につけられる。



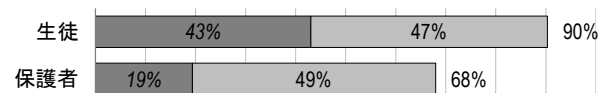
**生徒** 私は、日々の勉強に見通しを立てしっかりと取り組んでいる。  
**保護者** 子どもは、学習習慣を身につけ、日々勉強に取り組んでいる。



入学者の学習履歴や進路希望の多様化が進む中、個々の生徒のニーズへの対応はますます重要な課題です。「生徒一人ひとりが抱える悩みや課題に寄り添うこと」に、これまで以上の力を入れ取り組みます。

**生徒** 学校生活(学業、進路を含む)の悩みに、先生方は親身にに応じてくれる。

**保護者** 勉強のわからないことや進路の悩みは、学校で解決できているようだ。

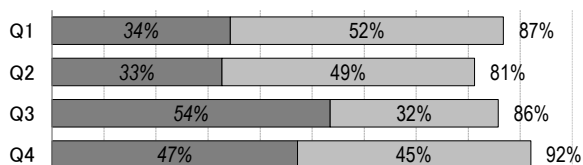


## 【進路指導、キャリア教育】

「生徒の可能性を信じ、生徒の隠れた力を引き出し、一人ひとりの夢と希望の実現を全力で支援する」のが本校の校是です。その第一歩である「夢を実現させるのにふさわしい大学への進学」を達成すべく、指導力の向上や指導体制の整備を重ねてきました。該当する評価項目の大半で昨年度以上の結果をえましたが、慢心することなく継続的に改善を進めます。

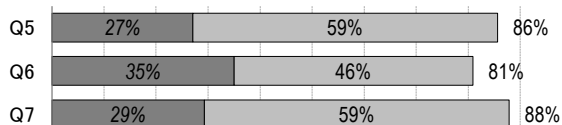
生徒には以下の質問で現状への評価を求めました。Q1、Q2、Q4 では昨年度を上回る評価を得ましたが、Q3 は肯定率(85%→86%)があまり伸びていません。進路指導や体験学習の場を持つごとに生徒が内省をきちんと重ね、未来の自分を発見できるよう、さらに指導を充実させていきたいと考えております。

- Q1 講演、ガイダンス、面談などは、進路選択に参考になる。  
 Q2 進路について考えるのに必要な情報は、十分に手に入る。  
 Q3 私は、自分の将来に目標や夢を持っている／持てると思う。  
 Q4 進路希望の実現に、学校はしっかりサポートしてくれる。



保護者には、以下の質問でお尋ねしました。肯定的な回答はどれも8割を超えますが、Q6は昨年の83%にわずかに届きません。生徒の評価結果とも一致する傾向です。進路希望の具体化まで一步一步着実に歩を進めていけるよう、進路意識形成の各フェイズの改善とそこでの成果の確認を徹底していきます。保護者の皆様にも、指導の方針や取り組みの実態、様々な場面での生徒の成長の様子などを通信やHPでしっかりお伝えしていきたいと思っております。

- Q5 進路指導の方針はわかりやすく、指導内容にも納得できる。  
 Q6 子どもは、自分の将来に目標や夢を持つようになった／なる。  
 Q7 子どもの進路希望の実現に、学校はサポートの態勢を整えている。



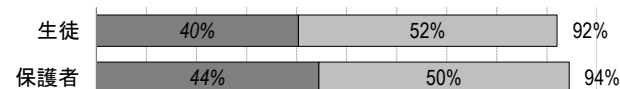
進路指導やキャリア教育の現状に対しては教職員の間にも改善に向けた問題意識が深く共有されています。生徒一人ひとりが志望理由をしっかりと持てるための指導をより高い次元で実現いたします。

## 【生徒指導、自律性の涵養】

生徒指導の場で大切にしているのは、生徒の自主性や自律性の涵養です。ルールや規則をただ守るのではなく、生徒が自ら取るべき行動を考えて、正しく選択する力を養うことに注力してきました。災害時などの対応は、改めて生徒の意識と行動を確かめていきます。生徒指導の方針についてもよりわかりやすく合理的なものを打ち出していこうと思います。

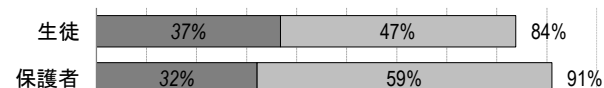
**生徒** 私は、学校の決まりや集団生活のルールやマナーを自分から進んで守っている。

**保護者** 子どもは、決まり事や約束、社会のマナーを自ら進んで守っている。



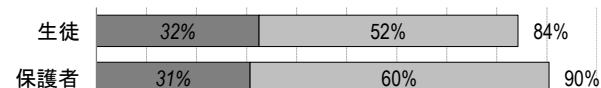
**生徒** 私は、地震、火災、事故などが起きたとき、落ち着いて適切に行動できると思う。

**保護者** 地震、火災、事故などが起きたときの学校の対応は明確で安心できる。



**生徒** 学校生活上の約束事はわかりやすく示されていて、指導には十分納得できる。

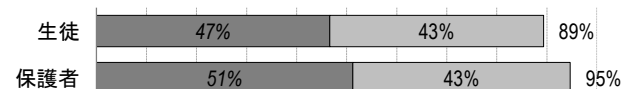
**保護者** 生徒指導の方針はわかりやすく説明されており、内容も納得がいくものだ。



自律性の涵養には、生徒同士／生徒と教員の間で働く相互啓発が重要です。昨年を上回る評価を得ましたが、生徒の肯定率はまだ9割に届きません。さらなる改善に取り組みます。前回同様に、この項目と学校生活に対する総合的な満足度の間には生徒、保護者ともに高い相関が見られます。学校文化は構成者の相互啓発によって作られることも、アンケートの結果で改めて知ることができました。

**生徒** 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢に刺激を受けて、自分も頑張れる。

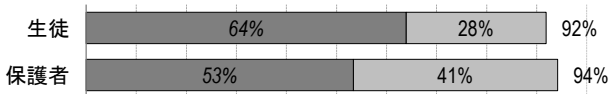
**保護者** 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢は、子どもにとって良い刺激になっている。



生徒の成長には周囲からのポジティブな刺激が必要であり、そうした刺激を歪めてしまう「いじめ」や「人間関係のトラブル」は何としても防がなければなりません。以下の質問への否定的な答えを限りなくゼロに近づけていきます。併せて、特色ある教育プログラムを通じて「わくわくする学校生活」を建設的に楽しんでもらえたら幸いです。

**生徒** 私は、いじめや人間関係のトラブルなく、楽しく毎日の学校生活を送っている。

**保護者** 子どもは、いじめや人間関係のトラブルなく、学校生活を楽しんでいる。



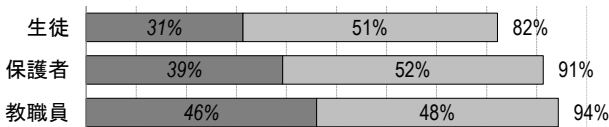
なお、実り多き学校生活を送るための土台は健康な生活、とりわけ規則正しい睡眠と食事です。「睡眠と食事を規則正しくとり、健康的に毎日を過ごしている」に肯定的に答えた保護者は 83%（前回 84%）です。各学年を通して生徒の意識づけを図ります。

また、生徒に自律を求める以上、教職員が服装や言動といった「基本」から模範を示す必要があります。前回は上回る結果ながら、生徒・保護者の目には改善の余地が残っています。改めて襟を正します。

**生徒** 先生は服装や言動で社会人としての模範を示している。

**保護者** 教員の服装・動は、生徒に社会人としての模範になっている。

**教職員** 私は、社会人としてのマナーを意識して職務に当たっている。

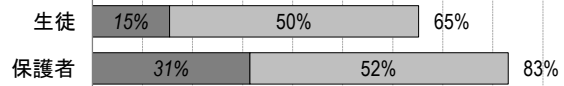


### 【建学の精神、教育理念への理解】

建学の精神や教育理念の下で、教職員がまとめ、その実現に邁進することは私学の存在意義そのものですが、教職員の間には閉じては独善になりかねず、生徒や保護者の理解と共感を得た上で、教育活動を進めることが大前提です。日々の学校生活の中で、生徒とともに「孝友三心・啐啄宣言」や「教育理念の4つの精神」について考える機会を多く持つようになっています。昨年度に比べて上昇した生徒の肯定率（孝友三心・啐啄宣言は 52%→65%、4つの精神は 49%→68%）に一定の成果は読み取れますが、十分とは言えない水準です。引き続き改善に努めます。

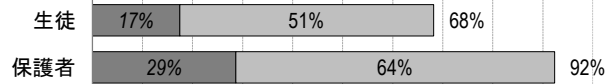
**生徒** 「孝友三心」「啐啄宣言」を意識して学校生活を送っている。

**保護者** 「孝友三心」や「啐啄(そったく)宣言」の内容を知っている。



**生徒** 私は、教育理念の4つの「精神」をきちんと理解している。

**保護者** 学校は、建学の精神や教育理念に沿った教育を行っている。

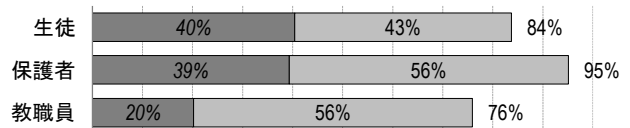


「建学の精神や教育理念の下でのまとめ」「生徒の前で孝友三心に言及する機会」での教職員の自己評価は、昨年より進歩したもののまだ心許ない状態です。「現状に満足することなく、生徒のための改革に取り組んでいる」との答えは大多数ですが、建学の精神、教育理念という拠り所を見失わずにいてこそ、新たな挑戦を続けることが学校に歴史と伝統を作るとの認識をしっかりと共有していきたいと思えます。

**生徒** 先輩方の活躍や校内の文化に、学校の歴史と伝統を感じる。

**保護者** 本校には歴史や伝統が備わっている／備わってきた。

**教職員** 学校には歴史と伝統が備わってきたと感じる。

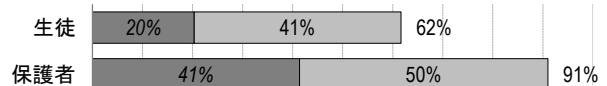


### 【特別プログラム】

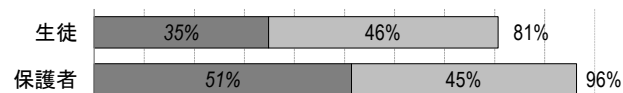
本校では、生徒の好奇心を刺激し、人間力を高めるべく、それぞれ明確な目的を持った6つのプログラム（SGT、日本の伝統文化継承プログラム、ボランティア活動、国際プログラム、緑風塾、地域共生活動）を整えて、その充実を図ってきました。コロナ禍にあるこの2年はプログラムの実施にも様々な制約がありましたが、可能な限りの工夫をこらし各々の目的を高い次元で達成したいと思います。まだ十分な評価を得るには至っていない部分もありますので、今後も更なる充実を目指して尽力します。ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

**生徒** SGTや緑風塾の活動には、目的意識をもって積極的に取り組んでいる。

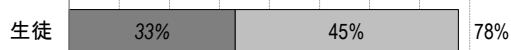
**保護者** SGTや緑風塾など、本校の特色ある教育には大きな期待を持っている。



**生徒** ボランティアや地域共生活動で様々な気づきや学びがある。  
**保護者** ボランティアや地域共生活動は、社会の一員の自覚を育む。



**生徒** 伝統文化継承や国際交流には、意欲をもって取り組んだ／取り組みたい。



各プログラムでの目標達成へのコミットメントや指導手法の確立を目指す研鑽などについては教職員の多くが引き続き「反省材料が多い」との認識です。コロナ禍にあっては、他に優先すべきものがあるのも現実ですが、特色ある教育活動として対外的にも打ち出し、生徒募集に際しても生徒、保護者の皆様にお約束してきたことです。しっかりと取り組み、それぞれの所期の目標の達成を目指します。

### 【部活動、学校行事、生徒会活動】

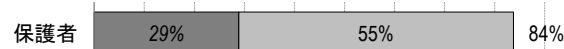
部活動は、「啐啄宣言」に表現されている「あきらめることなく自分の可能性を追求する」「自主性と自律心をもって静岡学園の生徒としてふさわしい行動をする」「友情と、先輩後輩の絆を深め、先生方から人間としてのあり方を学ぶ」などの、『生徒の宣言』を具現する大切な場と位置付けます。肯定的な回答をさらに増やすべく、活動の環境や指導体制を整え、生徒一人ひとりが「努力と活躍の場」を持てるように取り組んでいます。学校行事も含め課外活動の広報には昨年度より良好な評価を得ましたが、まだ不足がありますので、さらなる充実を図ります。

**生徒** 私の所属する部活動は、環境(練習場所、顧問の指導など)が整っている。

**保護者** 学校は、部活動の練習環境や指導体制を整え、生徒の頑張りを応援している。



**保護者** 行事や部活動での生徒の頑張りが活躍は、通信やHPで十分に伝わってくる。

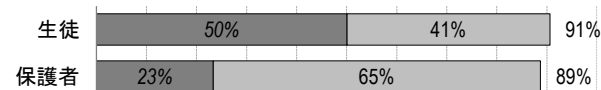


静学祭や体育祭などの学校行事では、自分の成長や周囲との絆の深まりという目的の達成を実感できている生徒が9割まで増えました。保護者の評価で

は「どちらかと言えば」の但し書きがつく肯定が多く内容や運営には更なるブラッシュアップが必要と感じているところです。安心・安全を最優先いたしますが、行事に込めた教育的意図が十分に実現するよう今後も工夫を重ねて参ります。

**生徒** 静学祭や体育祭では、自分の成長や周囲との絆の深まりを実感できる。

**保護者** 静学祭や体育祭の内容・運営には、教育的な意図がしっかり感じられる。



生徒の自主性・主体性の涵養が十分かとの問いに教職員の大半が、問題意識を残す「但し書き付き」で答えています。有効な指導法の確立を目指します。

**教職員** 生徒会活動や部活動での指導を通じて、生徒の自主性・主体性が育まれている。



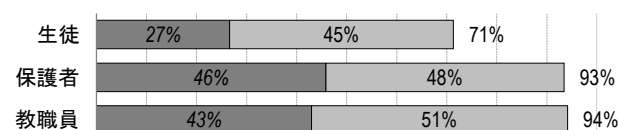
\* \* \* \* \*

学校がひとつにまとまるには、母校／職場に対して一人ひとりが誇りを持てることが必要と考えます。校歌を歌う場面に焦点を置いた生徒の評価は低めながら、三者ともに昨年を上回る結果となりました。

**生徒** 校歌を歌うとき、静岡学園の生徒であることに誇りを感じる。

**保護者** 子どもは、静岡学園の生徒であることに誇りを感じている。

**教職員** 私は、本校で教育活動に当たれることに誇りを感じている。



学校評価アンケートへのご協力に心より感謝いたします。寄せられた回答は学校に対する要望そのものです。結果に真摯に向き合い、より良い学校作りに役立てることで、以下の項目にも今年以上に多くの肯定的な回答を得られるよう努力いたします。

**保護者** 学校や先生方は、生徒・保護者の意見や要望に対し真摯に向きあってくれる。



本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL 054-200-0191 FAX 054-200-0195

教務部研修課(学校評価アンケート担当) 堀川 雅史